異分野交流の勧め

Recommendation for the interdisciplinary study in the Society of Fiber Science and Technology

小林 厚志

昨年4月より東北大に着任と同時に、私にとって6番目の学会として繊維学会に入会し、東北大学で行われた昨秋の年会より本格的に繊維学会で活動を始めました。このとき若手交流セッションにてポスター発表をさせていただいたのですが、そのとき感じたのが、繊維学会は「多様性」のある学会であるということでした。私の先入観では、維学というのは洋服に関係する分野だけだと思っていたのですが、大会に参加して初めて、界面化学・高分子化学・材料化学・バイオテクノロジー等、繊維学を支えている学問領域の広さに気づきました。

私はこれまでに、東京農工大農学部(坂野好幸教授)で卒業研究を始めてから、東京工業大学大学院生命理工学研究科(岡畑恵雄教授)で博士号を得て、産業技術総合研究所(水谷文雄室長)と食品総合研究所(林清室長)でポスドクとして研究活動を行ってきました。さらに修士課程の途中では、短期間ではありましたが、アメリカのロッッシュ分子生物学研究所にてマウスの分子生物学について経験させてもらうことができました。これら一つ一つの研究は1~3年程度のもので、到底その道のスペシャリストになりきれてはいませんが、「酵素」がすべてのテーマの中で共通項として存在していました。そのおかげで、物理化学、有機化学、そして分子生物学にいたるまで幅広い領域から「酵素」について研究するという経験を行うことができました。

私の経験のように、研究室を移動して様々な研究哲学に触れることは、結構困難であると思われます。私の場合は、知的好奇心が旺盛だった私の行動を理解していただける、優れた指導教官に恵まれたので、運よくこのような経験ができました。しかし多くの方は、学生・院生時代をひとつの研究室で過ごすため、どうしても指導教官の研究方針の

呪縛から逃れられないためと考えられます。もちろん、優れた研究哲学をもっていらっしゃる指導教官の下で研究生生活を過ごし、その分野における必要な経験をするということが非常に有意義であり、その後の研究生生活にとって大きな糧になるということはいまでもありません。しかしながら、一流の研究室出身の方で、異なる分野に興味を持てなくなってしまうだけではなく、その分野について自分自身が理解できていないことを棚に上げておいて、異分野の研究者は低レベルな研究をしていると決め付けてしまうような人も結構存在することも事実です。このような方が10年や20年後、この変動の激しい研究の世界の動きに機敏に対応できるのか非常に疑問です。

だからといって、なかなか学生時代に研究室を移動して、多種多様な研究哲学を吸収することは意外と難しいことだと思います。しかし、研究室を変えずに実行することは可能です。その方法の一つとして、繊維学会の年会へ参加することをお勧めします。繊維学会では、繊維を合成する化学者、物性を計る物理学者、生体高分子を扱う生化学者、服飾系の生活科学者等、実に豊富な分野の研究発表を聴くことができます。また、産官学すべての研究者が参加していることも非常に魅力であり、シーズからニーズに至るまでの過程も理解できるようになります。異なる分野の研究発表を聞きたいのであれば、日本化学会や日本生化学会に参加するのもひとつの手段だと思いますが、これらの学会ではやはり化学者または生化学者による研究集会であるために、完全に分野の垣根を取り除くことは難しいことだと思います。このような経験は、若いうちにしかできないことだと思いますので、是非これから研究者の道を志す20代の学生・院生には、先入観にとらわれずに「異分野交流」を率先して行ってもらいたいです。

最後にひとつだけ宣伝させていただきます。私は3年前より生体触媒化学に関するメーリングリストを立ち上げました(<http://groups.yahoo.co.jp/group/biocatalist/>)。このメーリングリストの参加者は、基本的には酵素などの生体触媒を扱っている若手研究者ですが、学会とは関係なく、また、分野にとらわれることなく、広く参加者を募っています。実際に、物理化学、電気化学など、一見生体触媒に関係ないような人にも参加していただいていて、実験に関する細かい質問からセミナーの案内など、多種多様な情報交換を行っています。本稿をご覧になって興味をお持ちになった方は、ぜひご参加ください。

ATSUSHI KOBAYASHI
東北大学大学院工学研究科 助手 博士
(工学) 修士(農学)
(社)繊維学会若手交流委員会メンバー。平成6年東京農工大農学部卒業、平成9年東京農工大大学院農学研究科修士課程修了(平成7年アメリカロッッシュ社分子生物学研究所短期留学)、平成12年東京工業大学大学院生命理工学研究科博士後期課程修了、平成12年工業技術院生命工学工業技術研究所博士研究員、平成13年独立行政法人食品総合研究所博士研究員、平成15年より現職。
〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉07
Tel: 022-217-7232 Fax: 022-217-7293
E-mail: kobayashi@poly.che.tohoku.ac.jp
専門 糖鎖工学・酵素工学
趣味 球技全般(観戦も含む)・マラソン・ドライブ・家庭菜園